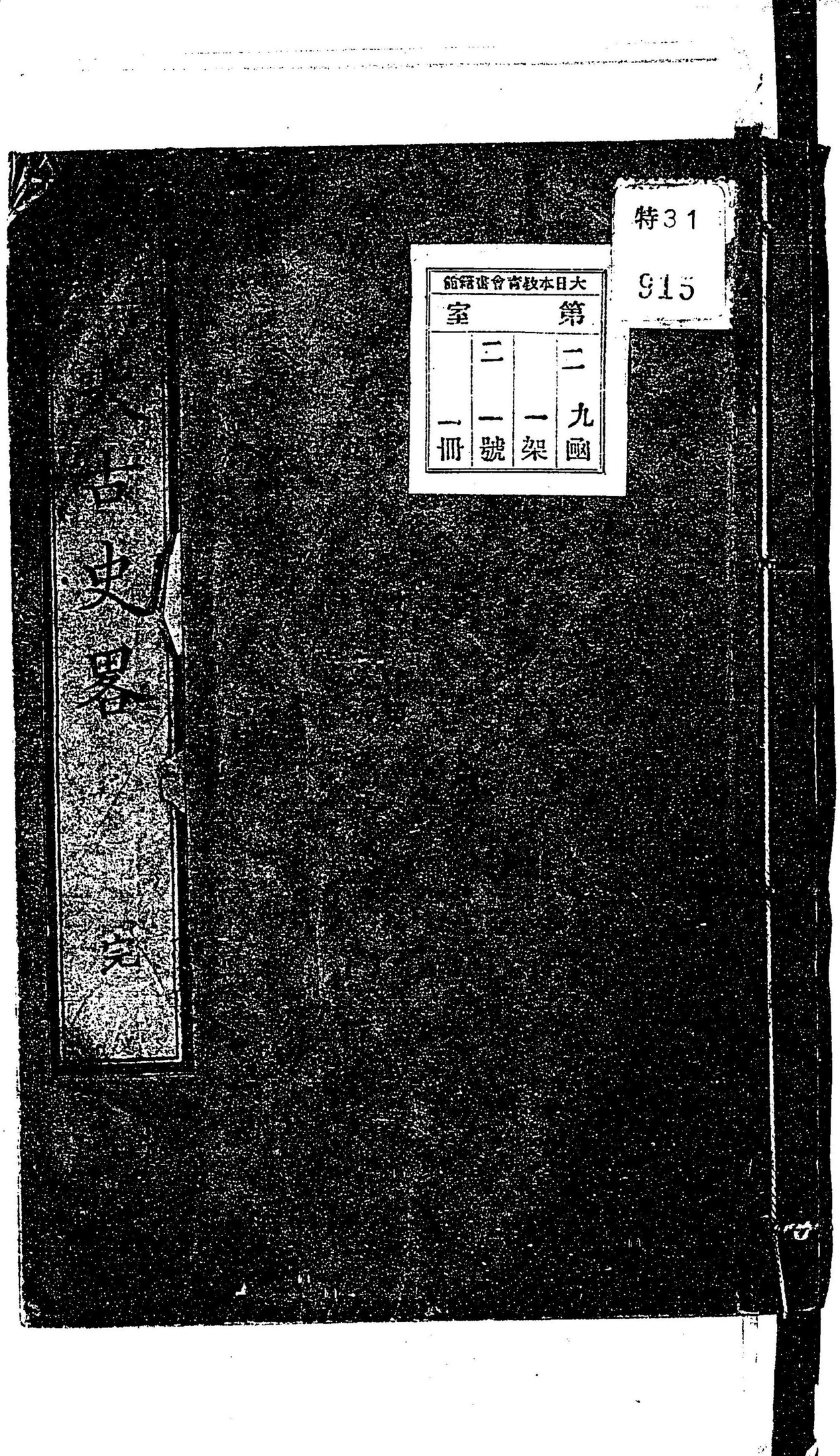


特31
915
大日本教育會書籍館
第二九函
室一架
二一號
一冊

001574-000-4

特31-915

太古史略

榊原　芳野／編

M8

ACB-4149

特31
915

榊原芳野編

大古史畧

明治八年二月
松木氏藏板

登邦國迹多
具佗阿郎書
也千秋君殁神

特31
915

登郁國近多
具必阿郎書
也千殺碧殺神

乃通他邊くく神能芙沙期止

小中村清矩
橘道守書

例言

一上世の事ハ記ものるゝハ諸書を參取せばハあ
るべからぬ而して此編一ゝ太朝臣安萬侶の
古事記のみを從ふ者ゝ事實ハ混淆せんこと
を恐るゝ故ふつゝ小冊子といへども
勅語の古傳ハ傳誦をしめんとハ庶幾もれ
ばあり

一巻中遠與雅馴の辭を用ゐばしを間、俚言ハ渉
ふ者ゝ多り是を亦兒童ハ解し易ゝらんとを
主とを往ハあり

一巻中圖畫を加ふといへども太古社事物憶想
ならざる故ふ其間一二寫真の
圖を錯しへ以て博物の資とあさんとす
一編中神名ならび標出して事實を其下ふ錄すもの
ならず諸史略の裁制に倣へるなり

榊原芳野誌

東京帝國大學圖書館藏

太古史略

榊原芳野　編

神中主神

天地の初發れ時高天の原ふ成りませる神なり

高御産巣日神

神産巣日神

以上の三神ハ並ニ獨神ふりまして御身ハ隱
給ふ

宇麻志阿斯訶備比古遲神

天之常立神

此の二神も亦獨神なりまして御身を隱し給ふ以上五神別天神ふり

國之常立神

豐雲野神

以上乃二神を獨神ふりまして御身を隱し給ふ以下二神を合せて一代と稱す

宇比地邇神

妹須比智邇神

角杙神

妹活杙神

意富斗能地神

妹大斗乃辨神

淤母陀琉神

妹阿夜訶志古泥神

伊邪那岐神

妹伊邪那美神

以上各男女の二神あり併せて神世七代と稱す此時諸天神乃命を以て二神に天沼矛を賜

二尊國土を作り固め給ふ

ひ國土を固め成さしむ爰に二神天の浮橋に立ち沼矛を以て潮を攪探り賜ふに矛の尖より滴さる潮自ら凝結して島と為る、意能碁呂島是なり、二神此島に天降りて八尋殿を立て女神先阿那邊夜志えをとこをと曰ひ男神後に あ に迎へ去え

をとめをと告り給ひ始めて夫婦の道を為し蛭子淡島を産み給ふ然れども皆良ならぬ御子なるを以て更に天神の命を請ひ改め御合ひて淡路島を生み次に伊豫、讃岐、阿波、土佐を生み次に隱岐を生み筑紫の國を生給ふ、今の九州なり次に伊岐、對馬、佐渡等を生み次に大倭豐秋津島を生みたまふ是所謂大八嶋なり而して後還りたまひ時吉備兒島小豆島等の六島を生給ふ而して海神大綿津見神風神志那都比古神木神久々能智神山神大山津見神野神鹿屋野比賣神等を生み火

神火之迦々(カカ)毘(ビ)古神生み給ふ方より焚かれて病み給ひ金山毘(カナヤマビ)古神土須毘(スビ)古水波能(ミナノ)売(メ)穀(ウガ)物宇(ウ)氣(ケ)毘(ビ)売神の神を生みて竟に神避りまして○伊邪那岐神女神に崩に給へる火傷に憤りて劍を拔き火神を斬り給ふ其血散して數神と為る其火神乃支體も盡く諸山神となり○爰に妹神を逐ひて黄泉國に至りまして妹神曰く來給ふ事に遲き故ふ歸り難しなれども還らん事欲はが故に黄泉神と論ん吾を視給ふこと勿れと其殿内に入りて久しき以て左に捕を掬の男柱に火櫛一を見給ふに御身爛れて八雷在り妹神吾に辱を見せつと怒り給ひて黄泉國の諸神に逐ハしむ男神逃げて黄泉比良坂に至り給ふ時に妹神も亦逐ひてよゝ泉に至り絶妻の誓をなせし給ふ○伊邪那岐神黄泉國の穢を洗ひ滌がんと日向の橘の小門の阿波岐原に拔しに玉ふ衣を脱き水に潜き給ふ時禍津日神直毘神住江神等生まれ坐り然れども左の目を洗ひ給ひし時おりませる天照大御神右の目を滌き給ひ

一時為りまする月讀命鼻を洗ひ給ひ一時成
りませる建速須佐之男命は三柱の貴乃子は
得たりと大に喜び給ふ因りて天照大御神を
高天原を知らせ月讀命は夜の食國を須佐之
男命は海原を治らせと詔り玉ふ然るに須佐
之男命命を給ふ國は知らさに八拳鬚に前に
至るまで啼哭て諸の妖は發し玉ふ伊邪那岐
神其故を問ひ玉へは妣の國に罷らん事は欲
して啼くと父神怒て神逐に逐ひ給ふ後伊
邪那岐神は天に還りて長く隱れまして近江多

賀に坐ける神是なり
天照大御神又大日孁尊
父神の詔に隨ひ高天原を知らに然るに速須
佐之男命は御姉神に辭して根の國に罷らんと
て天に上り坐る時に山川悉く動き國土皆震
ひぬ大神驚きて其不良乃心あらん事を恐れ
男は裝して弓矢を執り其來意を問ひ給ふに
須佐之男命其由は申へて異心なき事は明し
各誓ひて子を生むべしと天安河を隔て誓
ひ給ふ大神先須佐之男命の佩き給ふ劍を乞

ひ三段に折りて天の真名井に滌き嚼みて吹
棄る小霧ふ多紀理毘賣、市寸島比賣、多岐都比
賣の三神此生る。成し給ふ須佐之男命も亦大
神の左右髻鬘左右の手ふ纏けるに美須麻流の
珠をもひ同しく嚼みて吹棄る小霧ふ正勝吾
勝々速日天之忍穂耳命、天之菩卑能命、天津日
子根命、活津日子根命、熊野久須毘命を生む成
し給ふ大神其男神ハ吾ゝ物より成れり故ふ
吾子ふり女神ゝ汝の物ふ因りて成れり故ふ
汝ゝ子をりと分ち給ふ然ゝふ速須佐之男命

吾が赤心を以て因りて女子を得たりとれを
よきバ我勝ちぬと云ひて畔離溝埋等の諸乃
暴行あるども大神とを咎ひ怨し給ふ然れども
竟に天斑駒を逆剥にして機屋に投け入れ衣
織女乃驚き傷きて死ふ[illegible]大御神其暴を
畏れ給ひて天石屋戸をさし籠りまして大神岩
屋戸を籠りましかば高天原葦原中國皆暗
く諸妖悉發きり是を以て八百萬神天安河原
に集ひ思兼神高御産巣日神子思ひ謀りて常世の長
鳴鳥を鳴らしめ天兒屋命布刀玉命太占に占

ら へ五百真賢木の上枝に玉祖命に作れる八
尺勾璁の五百津御須麻流乃玉に著け中枝に
伊斯許理度賣命の作る八咫乃鏡を繫け下
枝に白幣青幣をもて布刀玉命太に取持
ち天兒屋命布乃詔戸言を申し天宇受賣命ハ
日影に縵をし真拆を鬘とし小竹葉に手草と
し伏せる槽に蹈み鳴し諸の笑ふべき事
を爲に是故に諸神皆笑ふ大御神怪しみて石
屋戸に開き微し出まをるを戸掖に隱れ立て
る天手力男神其御手を取りて引出し奉る

れて因りて六合盡く照り明かりき○是より先に大神食物を大氣津比賣神に乞ひ給ふ即鼻口等より出して進る速須佐之男命汚穢ふりゆきて大氣津比賣を殺し給ふ其神の頭に蠶、目に稻種、耳に粟、鼻に小豆、陰に麥、尻に大豆、此生を神産巣日神これを取りて種子に世ふ播き給ふ●おゝに八百萬神共に議りて贖物に出させ手足の爪を切りて須佐之男命を神やらひやらひに給ふ、出ゝふ須佐之男命出雲に肥河上に降り坐しを老夫老女の童女に中に

居て泣く に見給ひ其名に問ひ給へば答へて曰く國の神の子足名椎といふ者ありし妻の名を手名椎女に名を櫛名田比賣又奇稻田といふ吾女舊に八雅女有りし高志の八俣大蛇年毎に來て喫ひしを今又來る時なるを故に泣く

と須佐之男命其女を乞ひて湯津爪櫛に化成し自ら其髪に挿し二神に命じて八醞の酒を釀し垣を作りて八の門を設け門毎に假屋を結ひて其上に酒を置かしめて待給ふに大蛇果して来きり其目は赤酸漿の如く八頭八尾にして身に蘿及樹を生じ其蛇酒を飲みて醉ひ伏せり即佩せる十拳劔を拔きて蛇を切り屠り玉ふに其中尾に至りて其刃缺け損ハる割きて之れを見給ふに大刀ありこれを天照大御神に獻つりたまふ是草薙の大刀なり遂に出雲乃須賀に宮造りて坐に其地より雲の立つ所見て歌よみ給ふ其歌に「八雲立つ出雲八重垣妻ごみに八重垣作る其八重垣を」と後遂に父命の命に如く根の堅洲國に至りて坐に

○速須佐之男命の六世の孫大國主の神（又大穴牟遲神八千矛神八十神等五名あり）兄弟坐しかども皆其國を避けて大國主神に歸せり其故ハ八十神皆大國主神を嫉みて種々謀りてこれを殺さんとしかば母親刺國若比賣これを速須佐之男命

乃坐し根の堅洲國に遣はし給ふ其後須佐之男神の女須世理毘賣及生大刀生弓矢を得て庶兄弟を追ひ撥らい宇迦山の麓に宮造して始めて國を創り給ふ○然るに出雲乃御大の御前に在して海面を見給ふに形小くして蘿蔔殼を舟とし燈鵝の皮を裘として來る神あり諸神これを知らず大いに谷蟆の薦まよまして久延毘古に問ひ給ふに神産巣日神の子少名毘古那神なる事を知り其由を親神に白し給ふ即敕によりて二柱神相共に國土を經つ

營し給ふ後少名毘古那神海外の國に渡りて後大國主神これを愁ひ給ふ時に海を光らして寄り來る神あり曰く我を祀らば共に國を作らんといふ大き御諸の山上に坐す神なり

正勝吾勝々速日天忍穂

耳命

安川原に誓い給へと化生き坐せる神なり天照大御神の命に因りて天降らんと給ふ天浮橋ゐて豐葦原の千秋長五百秋の水穂の國を其喧擾てありと還り上りて天照大御神に復へ給ふ此以て高御産靈神天照大御神の命を以て天安河原に諸神を集へて思兼乃神に謀らしめ給ふに皆議りて天菩比神を遣はせるに三年まで復命を亦天若日子を遣ハし給ふ天若日子亦大國主神の女下照比

賣を娶り其國を獲んと慮ひて八年まを復奏申さず故に雉名鳴女を遣ハして問ひしめ給ふ天若日子天神乃賜へる天の波士弓天の加久矢を以て雉を射て其胸を通ふして天照大御神高木神即高産靈神の御許に逮ふ天つ神其血着きたる矢を見て邪正を試さんと為に投けろへし給ふ果して其胸に中りて死まり是ふ更に議りて建御雷之男神を遣ハし給ふ天鳥船神をれに副ひて出雲國伊那佐之小濱に降り劍を波浪の上に竪て其尖に坐して天神

の勅を説く大國主神其子八重事代主神並に勅に奉け給ふ然る後建御名方神獨父兄の命に從はに建御雷神と力を競らへて及ばに科野國に至りて其處に鎮りまに其大國主神も出雲の多藝志の小濱に宮造りして隱れ給ふ建御雷神遂に葦原中國を平定して其由を復奏し給ふ

天途岐志國途岐志天津日高番能邇々藝命

天照大御神高木神の命を以て天忍穗耳命を降さんとして葦原中國を平定せしめ天降りまさんとまた問ふ生れまさる御子なり父命此御子を降さんと請ひ給ふに因り天降まさんとする時に猿田毘古神天八衢に在りて導きし給ふ天兒屋命、布刀玉命、天宇受賣命、伊斯許理度賣命、玉祖命に從ハしめ又岩屋戸の前にて榊を取りて八尺勾璁、鏡、草那藝劍に賜ひ及思兼神手力雄神天石門別神を副へて詔く此鏡を我御魂として吾前を拜くが如く齊つき奉れと遂に日向の高千穗の久士布流嶽に降りまに天忍日命天津久米命先驅

り遂に笠沙の御前に宮造りしてよゝ坐に
天津日高日子穗々手見命亦名火遠理命
御母ハ木花之佐久夜
毘賣の命三子を生ミ
給ひ最後に生ミ給ふ
御子なり初に生みま
せる火照命を海佐知
毘古として海の幸有
り此御子を山佐知毘
古として山の幸ありた

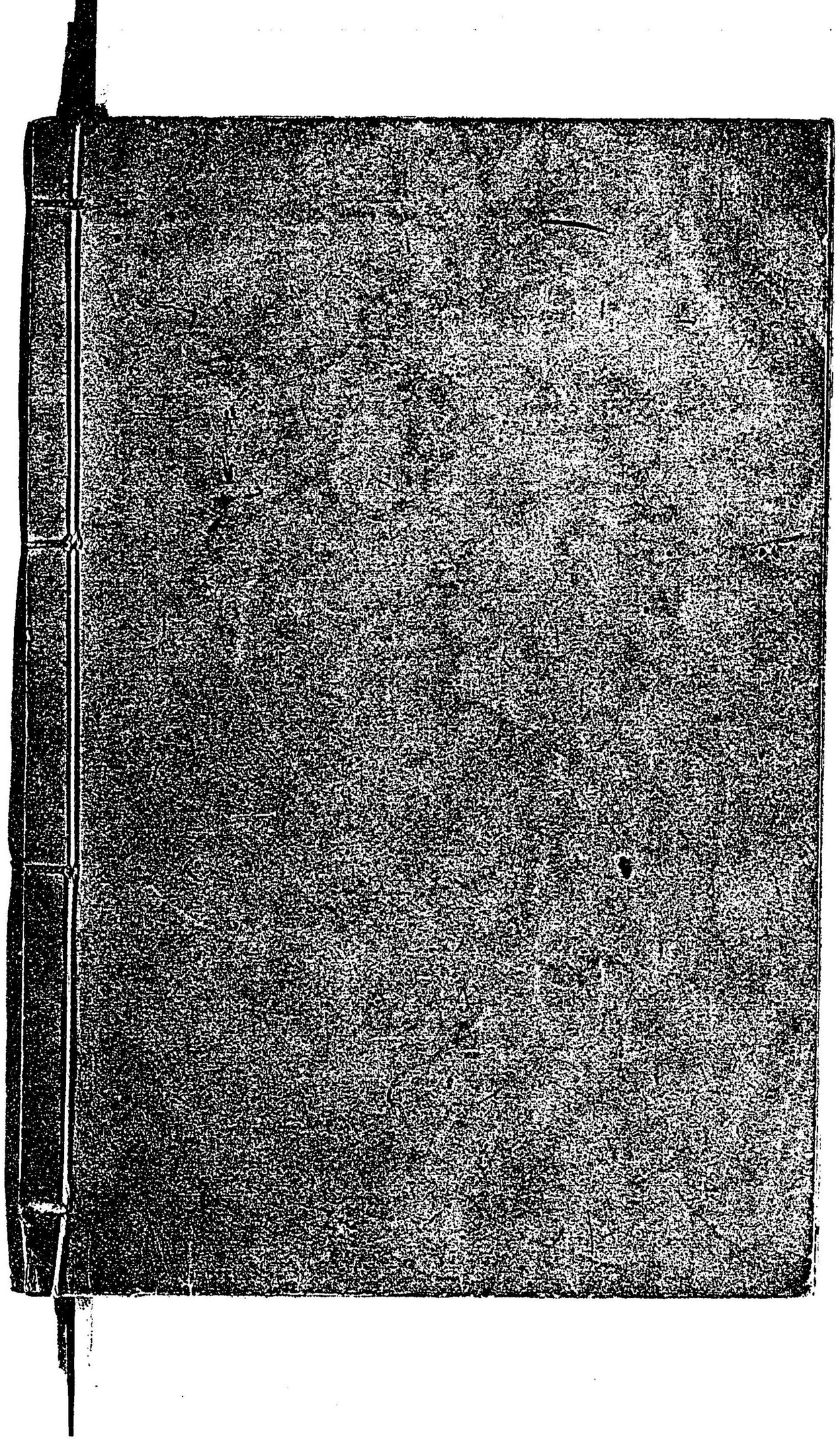
然るに各其幸を易へて試にんと火照命の
鈎を以て魚に鈎り給ふに其鈎を失ふ因りて
其兄強ひて乞ひ徵る故に其劔を以て多くの
鈎に作り償へども聽きず又これを倍して
猶其原の鈎を還せと責るに大に命泣き憂ひ
て海邊に居たる時鹽推の神來り其由を問
ふ因りて實を告け給ふ其神无間勝間の小船
を造るこれに入りて海神の宮に到りたまふ
命鹽推の神の教に從ひ門傍なる桂樹の上に

登りて待ち給ふは會海神れ女豐玉毘賣乃從
婢出て水汲まんとこれを見て毘賣ゐ白
す毘賣又夫を汝海神は曰ふ海神一見して天
孫ゐると知り延きて内ゐ入れまつり遂は其
女豐玉毘賣汝奉るこゝを居まんと三年ゐ
及び命歸らんと汝欲して海神海族は
命して失ふ所の鈎を覓めて奉らしめ兼て鹽
乾珠鹽盈珠汝奉り鰐魚は命して送らしむ而
るゐ兄猶殘心を起して迫り攻む命二珠ある汝
以て火照命を窘しむまて遂は伏從して汝

一尋鰐天孫を送り奉る

ゐ仕へんと誓ふこゝは
豐玉毘賣來りて其子汝
海邊は生を給はんとん
其産舍汝葺くゐ鸕鷀の
羽を以て未と葺き終
らざるは已は生まんと
を命は白して伺ひ見給
ふ去とふはしむ然ゐ
ぞも聽ばして産舍の
中汝見給へは大鰐と化

14
1
82

りて匍匐居給ふ豐玉毘賣てれを恨と愧ちて
歸る然き乞も其女弟玉依毘賣ゝ遣りて御子
を養ひ奉らしむ命高千穗宮ゝ崩り給ふ
天津日高日子波限建鵜草葺不合命
其産舍を葺き終らきるゝ生れ給ふゝ以て稱
ひる御名をり御子五瀬命稻氷命御毛沼命若
御毛沼命ゝ四柱ましまし若御毛沼命ゝ又豐
御毛沼とも稱ひ即神倭伊波禮毘古命ゝして
皇祖神武天皇是ゝり
大古史略終

東京
書肆
兩國吉川町
大黒屋平吉